

**未来の都市づくり戦略**

**～2050年カーボンニュートラル実現のために～**

# **津市地域脱炭素宣言！**

**Tsu City Carbon Neutrality Commitment**

**令和4年8月19日**

# 地球温暖化対策の取組状況①

## 気候危機と国内外の動き

- ▶ 世界の平均気温は産業革命(1850～1900年)以前と比べ、既に約1℃上昇。現状のままでは更なる気温上昇を予測
- ▶ 気温上昇に伴う気候変動は、豪雨災害や猛暑による健康障害リスクのほか、生態系、水資源、農林水産資源、社会経済活動に悪影響
- ▶ この気候危機とも称される気候変動の緩和を目的として、2015年12月のCOP21にて「パリ協定」を採択
- ▶ 日本では2020年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」、2021年4月に「2030年度の温室効果ガス排出量を46%削減（対2013年度比）を目指し、さらに50%の高みへの挑戦」を国が表明
- ▶ 2021年10月に国が改正地球温暖化対策法を公布(施行は2022年4月1日)し、地球温暖化対策計画を改訂

# 地球温暖化対策の取組状況②

## 津市のこれまでの取組

- ◇ 好風況エリアへの風力発電設備の導入促進
- ◇ 津市バイオマス産業都市構想に基づくバイオマス発電の推進
- ◇ 新エネルギー利用設備設置費補助事業による再エネの普及促進
- ◇ 白銀環境清掃センター跡地へのメガソーラー発電設備の誘致
- ◇ 西部クリーンセンターでの廃棄物焼却に伴う余熱利用発電
- ◇ 二酸化炭素の吸収源となる森林の整備促進

現状の対策の延長では今世紀半ばには  
2℃を超えて上昇

(気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第6次評価報告書より)

この状況を受け、国は地球温暖化対策の  
取組を強化



気候危機を回避するためには  
地域を含めたあらゆる主体が  
脱炭素の取組を加速させる必要あり

津市は、地域の未来に責任を果たすべく、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ  
(カーボンニュートラル)の実現に向けて取り組んでいくことをコミットメントします。

# 津市地域脱炭素宣言

～我々は、具体的な脱炭素行動を実践・実行・実施していきます～

地球温暖化の影響とみられる気候変動によって、近年、甚大な自然災害が頻発し、私たちの生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。このままでは、人間と地球上のすべての生命体が多くリスクにさらされます。2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるように努力する」との目標と、今世紀後半までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることが必要であるとの認識が示され、世界全体がカーボンニュートラルに取り組んでいます。

しかし、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、令和3年8月の第6次評価において、人間活動の影響で地球が温暖化していることは「疑う余地がない」とした上で、現状の取組では、目標の達成は極めて困難であることを示しました。気候危機を回避するためには、カーボンニュートラルの取組をさらに加速させる必要があります。

私たちのまち津市は、緑あふれる山並み、恵みを育む清流や河川、南北に延びる美しい海岸線などの豊かな自然と都市機能が共存する素晴らしいまちです。先人たちの叡智と努力によって築き上げられ、守られてきたこれらの環境は、私たちの大切な財産として、未来を担う次世代に、より良い状態で確実に引き継いでいかなければなりません。

市域の約6割を占める森林が温室効果ガスの吸収に貢献し、市内の全消費電力量の5割以上を再生可能エネルギーで賄える津市は、このポテンシャルを活かし、世界規模で喫緊の課題となっている地球温暖化対策を地域の課題解決の機会とも捉え、地域の未来に責任を果たすべく、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロの達成に挑みます。

我々は、資源循環、省エネルギー・蓄エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及、森林環境保全等の地域脱炭素に資するあらゆる分野において、行動し続けることに共感する市民、事業者、団体等のあらゆる主体とともに脱炭素行動を実践・実行・実施していくことで、脱炭素社会を実現していきます。

令和4年8月19日

津市長 前 葉 泰 幸

※本日(令和4年8月19日)、市長の宣言(動画)及び宣言文を市ホームページにアップします。

# 地域脱炭素推進事業 《令和4年度(2022年度)～》

津市地域脱炭素宣言のもと、地域の未来に責任を果たすべく実践していきます。

## 地域脱炭素(2050年カーボンニュートラル)を実現するための取組

- (1) 環境に配慮した賢い選択と行動を最優先に考える価値観が波及、浸透する取組 (Act Wisely)
- (2) 行政、事業者、団体、市民等のあらゆる主体が協力・連携する取組 (Partnership)
- (3) 地球温暖化対策を地域課題の解決の機会と捉えた取組 (Globally)
- (4) 本市が持つ地域ポテンシャルを活かした取組 (Locally)
- (5) 持続的都市の発展や公共サービスの向上を目指した取組 (Sustainability)

津市域における  
脱炭素行動を  
実践・実行・実施

## 地域脱炭素推進するための行動

2022年

2030年

2050年

【Ⅰ】 脱炭素に関する価値観の波及

【Ⅱ】 行動の変容、連携・協力の創出

【Ⅲ】 脱炭素ムーブメントの伝播

脱炭素効果の増幅

地域脱炭素社会

地域の未来へ責任を  
果たします

- ・ 気候危機回避へ貢献
- ・ 地域課題解決
- ・ 持続的都市の発展<sup>など</sup>

# 令和4年度に取り組む地域脱炭素推進事業

## 【I】 脱炭素に関する価値観の波及

### 1 連携・協力

- ▶カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進に関し、共に実践する主体とパートナーシップを合意形成し、連携・協力体制を構築
- ▶連携・協力のパートナーを増やしていくことで、地域脱炭素の取組を増幅

### 3 その他

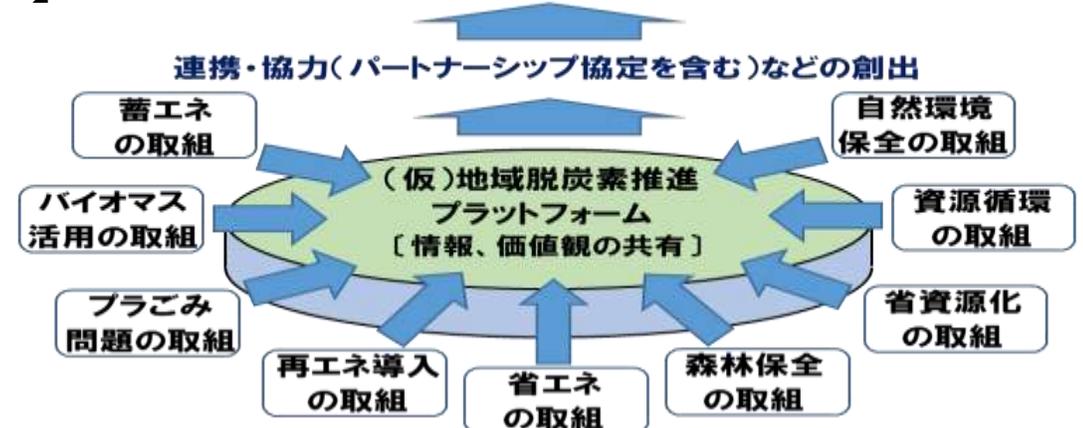
- ▶庁内プロジェクトチームの設置  
・脱炭素事業の洗い出し
- ▶地域脱炭素推進キャンペーン  
・市民、事業者、教育機関と共に、脱炭素推進のための啓発の実施
- ▶地域脱炭素推進意見交換  
・事業者、団体等へのヒアリングの実施

### 2 (仮) 地域脱炭素推進プラットフォームの設置 (年内予定)

情報、価値観を共有するためのプラットフォームを市が設置

- ▶脱炭素情報を集約したプラットフォームをWeb上(津市HP等)に設置
- ▶多数の事業者、団体等の参画で、脱炭素の取組を見える化して共有
- ▶積極的な取組や一定の成果を上げている事例を広く紹介し、登録事業者、団体等のイメージアップと共に、他者の参考とすることで連携・協力の創出、及び取組の普及促進に繋げる。
- ▶市内児童・生徒、市民向けに、脱炭素の取組を普及啓発

#### 【イメージ】 地域脱炭素に係る取組の波及・増幅



# 令和4年度に取り組む地域脱炭素推進事業

## 【Ⅱ】 行動の変容、連携・協力の創出

取組区分	行動	これまでの取組 (今後も継続)	新たに展開する取組	具体アクション
①	<b>効率化</b> 省エネ・省資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源循環、3Rの推進</li> <li>・地産地消の推進</li> <li>・グリーンカーテンの推進 など</li> </ul> 啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源循環に関する新技術の活用</li> <li>・エネルギーの地産地消の拡大</li> <li>・ZEH(ネットゼロ・エネルギー・ハウス)等の推進 など</li> </ul>	<b>【アクション #1】</b> プラスチック資源循環(ボトル to ボトルリサイクル)を事業者と連携・協力して実践  ※今後、各主体と連携・協力した具体のアクションを、#2,#3,#4,#5…と展開して、実践していきます。
②	<b>置換</b> 再エネ導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新エネ補助事業による普及促進</li> <li>・白銀跡地へのメガソーラー誘致</li> <li>・バイオマス発電の推進</li> <li>・西部焼却施設サーマルリサイクル など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した再エネ設備の導入促進</li> <li>・蓄電設備の導入促進</li> <li>・イノベーションにより社会実装される再エネの活用(水素、アンモニア、メタン) など</li> </ul>	
③	<b>吸収</b> CO2吸収量増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の整備促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境譲与税を活用した森林整備</li> <li>・木材の利用促進</li> <li>・炭素貯留を目的とした木造建築物の建築促進</li> <li>・事業所等から排出される温室効果ガスのCCUS など</li> </ul>	

## 【Ⅲ】 脱炭素ムーブメントの伝播

脱炭素に関する価値観を共有する、あらゆる主体と連携・協力して、脱炭素行動を広げ、脱炭素社会を実現していきます。

# カーボンニュートラルの実現に向けた プラスチック資源循環の推進に関する パートナーシップ協定の締結について



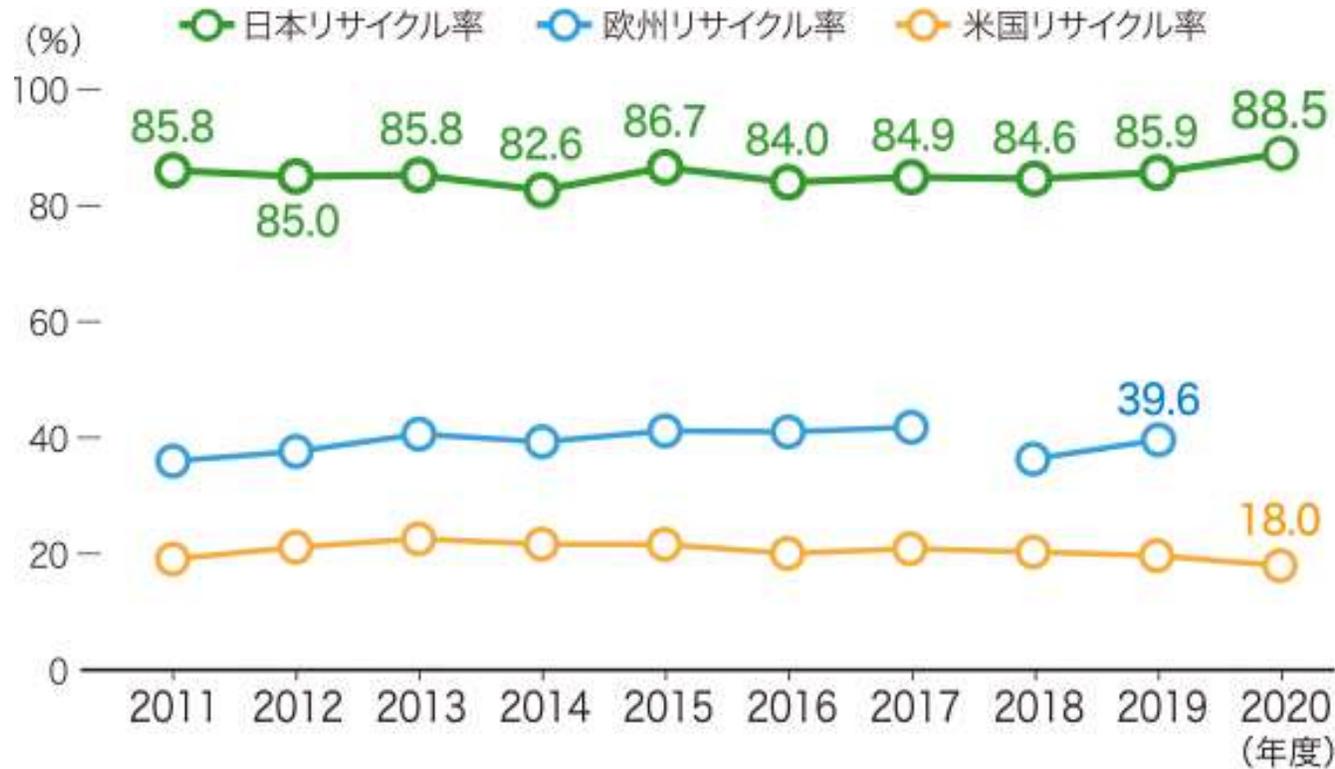
SUNTORY

津市 × 協栄J&T環境 × サントリーグループ

令和4年8月19日

# ペットボトルのリサイクル

# 背景：日本における回収率とリサイクル率



(出所) 欧州: Wood Mackenzie社 (2018年調査方法の精査修正)  
米国: NAPCOR

※出典:  
PETボトルリサイクル推進協議会 年次報告書2021

回収率

96.7%

リサイクル比率

88.5%

熱回収を含めると約98%が有効利用されている

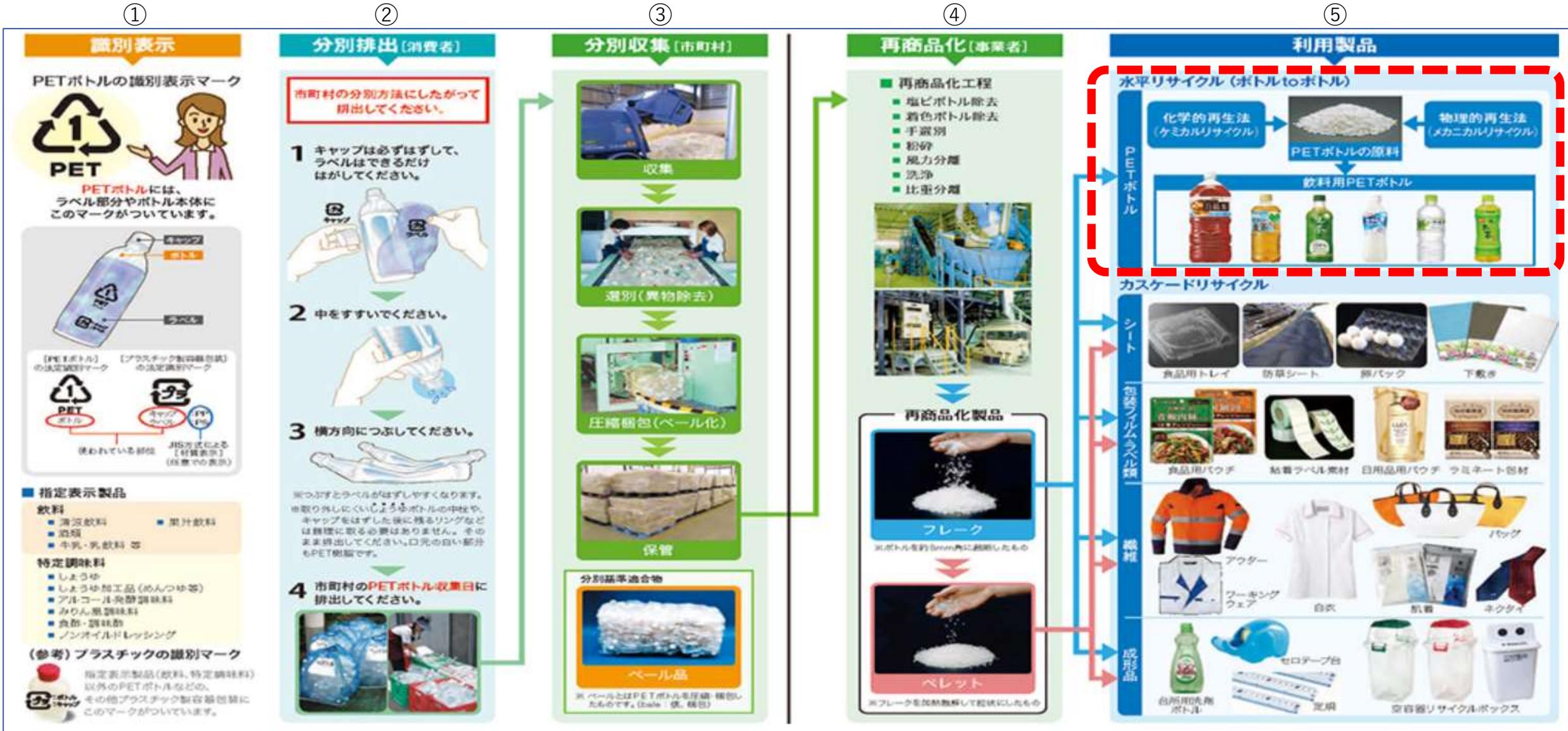
**ペットボトルは『リサイクルの優等生』**

# ペットボトルのリサイクルの現状



※出典：  
PETボトルリサイクル推進協議会 年次報告書2021

# ペットボトルのリサイクルの流れ



# 『ペットボトル』は何度も循環できる「資源」

## 水平リサイクルの流れ

(6)

プリフォーム



再生PET樹脂

(5)

フレーク・ペレット



(4)

粉碎・洗浄・除染



(1)

ペットボトル



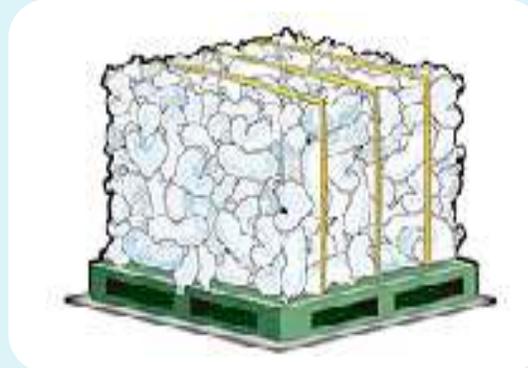
(2)

分別



(3)

回収



# パートナーシップ協定（#1）による連携・協力（B to B）

サントリー食品  
インターナショナル(株)

使用済みペットボトル由来の  
ペットボトルを供給

サントリー  
ホールディングス(株)

製品容器（ペットボトル）として使用  
製品（ペットボトル飲料）を出荷

使用済みペットボトル由来の  
材料を使用してペットボトル  
を製造

市民

ペットボトル飲料を購入  
ペットボトルを分別排出

資源循環  
のループ

水平リサイクル（BtoB）材料  
としてペレット又はフレーク  
を供給

家庭ごみ収集

使用済みペットボトル  
を選別・粉砕・洗浄

津市

家庭ごみで収集した使用済み  
ペットボトルを供給

協栄J&T  
環境(株)



地域の皆様

津市



SUNTORY

